

地域と病院をつなぐ新しいコミュニティスペース

# 連携通信

シリーズ① がん集学治療センター



FACE TO FACE 吉池 昭一センター長

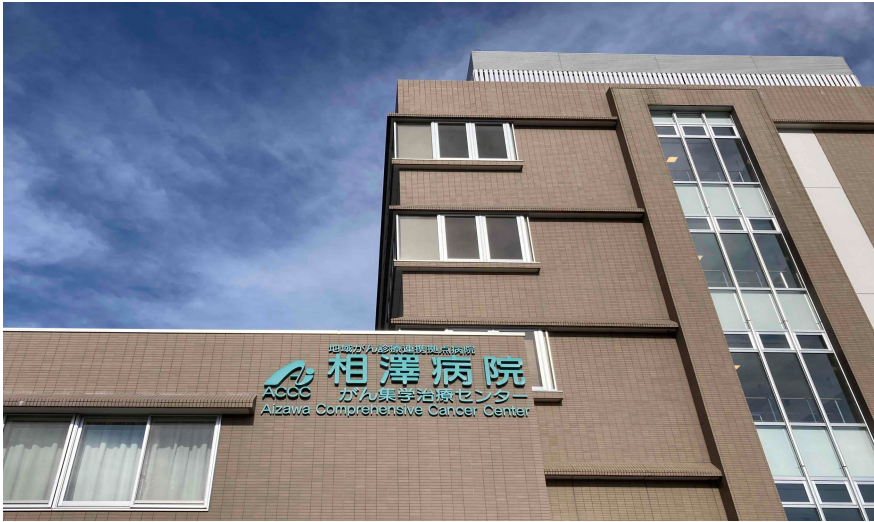
相澤東病院「東病院新聞より」

相澤病院 ふれあい祭りの様子



がん集学治療センター (ACCC: Aizawa Comprehensive Cancer Center)

◆ 集学的治療を担うがん集学治療センター ◆



がんの治療には、手術療法、化学療法、放射線療法、免疫療法など様々な治療がありましたが、いずれか一つをもってがんを十分に治療することは難しいとされています。

そこで、より高い治療効果を目指して二つ以上の治療方法を組み合わせて行う「集学的治療」をがん集学治療センターが担っています。

## がん集学治療センターの歴史

多彩な専門スタッフ

- 2007年10月 がん集学治療センター開設  
2007年10月 トモセラピー（強度変調放射線治療）稼働  
2007年11月 日本がん治療認定医機構研修施設認定  
2008年 2月 地域がん診療連携拠点病院に指定  
2011年 8月 腫瘍精神科外来を新設  
2013年 2月 ガンマナイフ パーフェクション導入（更新）  
2014年 9月 陽子線治療センター開設  
2016年 5月 小児陽子線治療分野での3病院連携協定（信大・こども病院）  
2019年11月 関東甲信越地域小児がん連携病院に指定  
2020年 1月 がんゲノム医療連携病院に指定 遺伝子診療科を新設  
2022年 4月 がん在宅診療科を新設  
2022年 5月 腫瘍循環器科を新設  
2023年10月 化学療法患者への頭皮冷却療法の導入

がん医療は細分化や専門化が進み、それぞれの分野にスペシャリストがいます。新しい治療法も次々に確立されており、これまで以上に多くの専門家による英知の結集が求められます。

相澤病院ではがん治療に携わるスペシャリストを各部門に配置し、緊密に連携しながら、ひとりひとりの病態に合わせた治療を行っています。



主な専門資格	人数
がん治療認定医機構 がん治療認定医	19
がん治療認定医機構 指導責任者	1
日本消化器外科学会 消化器がん外科治療認定医	12
日本臨床腫瘍学会 がん薬物療法専門医	3
日本緩和医療学会緩和医療認定医	1
日本医学放射線学会 放射線治療専門医	2
日本人類遺伝学会臨床遺伝専門医	2
放射線診断専門医	5
緩和ケア認定看護師	3
がん看護専門看護師	1
がん薬物療法専門薬剤師	1
がん薬物療法認定薬剤師	2
緩和薬物療法認定薬剤師	1
放射線治療専門放射線技師	1
医学物理士	2
認定遺伝カウンセラー	1
がん病態栄養専門管理栄養士	2

がん集学治療センターは、9つの診療科、がん登録統計調査課、がん臨床研究管理課、がん相談支援センターなど、様々な支援体制を整え、全人的な支援を行っています。

がん集学治療センターでは、診療科や支援部門が多職種で連携し、質の高いがん医療の提供に努めています。

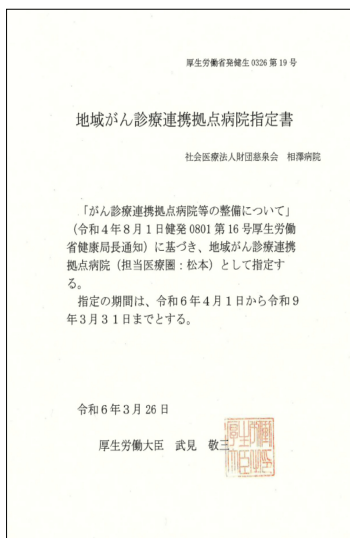
## がん診療・患者支援体制

# がん集学治療センター (ACCC: Aizawa Comprehensive Cancer Center)

## ■ 地域における拠点病院・連携病院としての役割 ■

特定のがん種等についての治療を提供する医療機関として、小児がん連携病院（類型2）の指定を受けています。具体的には、『信州大学医学部附属病院』と『長野県立こども病院』との連携により、小児腫瘍に対する陽子線治療を実施しています。

### 小児がん連携病院



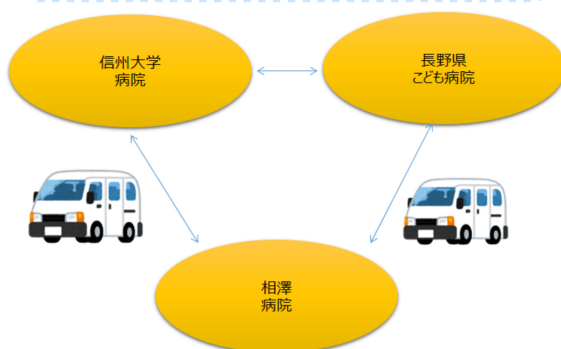
相澤病院は『地域がん診療連携拠点病院』の指定を受け、域に居住している国民が一定水準以上の標準的な医療が受けられることを目標に創設された。厚生労働省の制度です。地域専門的ながん医療の提供と、地域連携体制の構築、がん患者・家族に対する相談支援および情報提供に努めています。

### 地域がん診療連携拠点病院

がんは遺伝因子や環境因子などさまざまな要因で発症しますが、がん細胞の遺伝子の変化を調べることで、治療法を探索し、患者さん一人ひとりの遺伝子治療方法などを検討、提案しています。

### がんゲノム医療連携病院

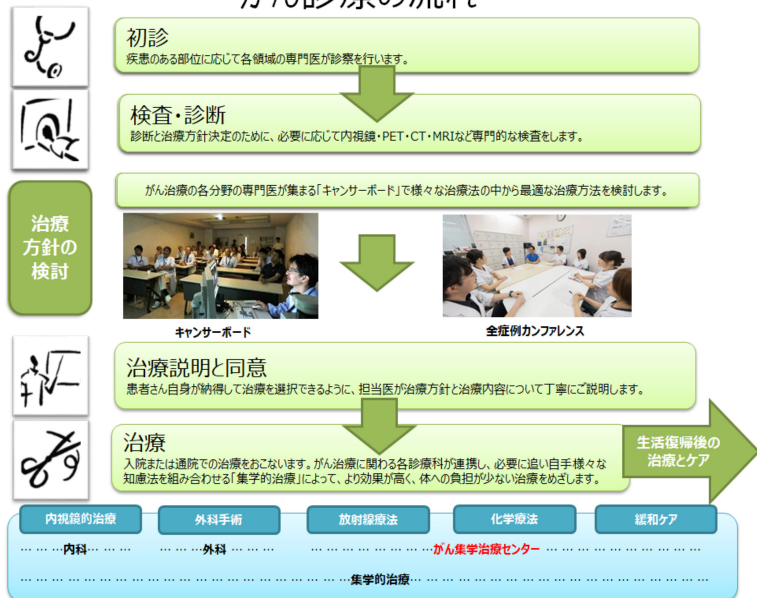
- 長野県の小児がん連携病院(3施設)
- 1) 信州大学医学部附属病院
  - 2) 長野県立こども病院
  - 3) 相澤病院



### 長野県のがんゲノム医療連携病院

- ◆がんゲノム医療拠点病院 信州大学医学部附属病院
- ◆がんゲノム医療連携病院
  - ・相澤病院
  - ・長野赤十字病院
  - ・諏訪赤十字病院
  - ・伊那中央病院
  - ・佐久総合病院佐久医療センター
  - ・長野市民病院

### がん診療の流れ



相澤病院では、各分野の専門医で構成される『がんサナード』で、果やリスク、患者さんのご希望、生活背景などを勘案して治療方法を検討します。その結果、単一療法では効果が期待できる場合、単一療法よりも効果が期待できる場合、また、治療と並行して緩和ケアの積極的な導入により、苦痛をコントロールしています。

### キャンサーボードによる最適な治療方針の検討と共有



## 三島センター長に聞く！



### 三島 修

がん集学治療センター センター長  
日本外科学会専門医・指導医  
日本呼吸器外科学会専門医  
日本消化器外科学会認定医  
肺がんCT検診認定機構肺がんCT検診認定医

### Q: 相澤病院のがん治療の強み・特徴は何ですか？

相澤病院のがん治療は、多様な専門科が多角的に関わることでより適格な治療とサポートができる事にあると思います。

① 診断から治療：診断科による診断とその後、cancer board (臓器別) による多角的な治療法の検討

② 治療の多様性：各手術療法・化学療法・放射線治療の多様性 (ガンマナイフ・陽子線治療・トモセラピー)、遺伝子診療科、そしてこれらの組み合わせによる集学的治療の充実と緊密な連携。

③ 治療に対する支持・支援：症状の緩和はもちろん (緩和療養科) 各種の治療に対する専門科 (精神腫瘍科・腫瘍循環器科) の支持を得ることで安全ながん治療につながっている事。終末期に対してもがん在宅診療科による在宅での看取りも可能である事。

④ 患者の社会性や精神面を含めた生活への援助：がん相談支援センターを中心とした相談体制の充実 (就業、患者・家族の集い (ハートサロン)、アピアランスケア、妊孕性相談) や遺族会などによるご家族にケアの継続。

### Q: これからのがん治療の展望は？

ロボット手術・薬物療法の個別化と多様化・遺伝子診断と治療・放射線治療の機器の進歩・支持療法や支援の充実を背景に、様々な治療の組み合わせや低侵襲な治療が早期癌から進行癌まで選択できる時代となっています。進行再発癌の予後の改善と、身体的苦痛のより少ない治療が可能な状態となっていくと思います。

### 開業医の先生・

### 地域の病院へのメッセージ

手術・薬物療法・放射線治療・支持療法・患者支援など、様々な視点から治療を考えることのできる場所でありたいと思っています。そのため人材の確保や育成等にも力を注ぎ、次につなげていける病院でありたいと思います。施設の充実はもとより、多くの専門科との連携が取れていると自負しています。そんな中で適格で人に寄り添った治療ができるよう邁進していきたいと思っています。

次回は  
がん集学治療センターの  
各診療部門を  
ご紹介します。





# 相澤東病院夏祭りが開催されました

## 祭 夏まつり

夏を感じていただくために、  
輪投げ・スイカ割りなどの  
縁日を行いました！  
笑顔が溢れていました♪

スイカ割り



輪投げ



ヨーヨー釣り



ジャガイモ



アンジェラ(茄子)

### ～東病院農園～

←採れたお野菜のご紹介  
猛暑が続く中でしたが、収穫  
することができました！

※スタッフが美味しくいただきました





# FACE TO FACE Vol.5

相澤救急医は、地域の味方

吉池 昭一（よしいけ しょういち）  
救命救急センター センター長



## □ 相澤病院

### 救命救急センターへ着任

私は、上田市出身で昭和大学を卒業しました。昭和大学の有賀名誉教授が、相澤病院救命救急センターの顧問をされている関係もあり、縁あって7年前に相澤病院に着任致しました。

相澤病院の救命救急センターに来てみての率直な感想は、「大変そう……でも楽しい」でした。当時、24時間365日断らない救急医療をこのマンパワーで地域に提供していることは本当に凄いなと思いました。救命救急センター長を拝命頂き、相澤理事長と面談した際には、「うちは断らないから、量と質を両立して、挑戦してほしい」と激励を頂きました。

まず初めに取り組んだことは、医師・看護師・救命救急士・事務といった救命救急センター全体のコミュニケーションを良くするために、時間外に振り返りを行うなどして情報共有ができるよう努めました。また、安全で質の高い医療を担保するため医師の充足に力を入れています。お陰様で現在は、4名の常勤医と20名の研修医と日々の救急診療を対応させて頂いています。



## □若手の育成と、 チーム医療の実践

救命救急センターの医師として、日々の質の高い医療を提供できるように努める中で、若手医師の育成も重要と考えております。研修医には、患者さんの思いに寄り添い、患者さんの背景を理解して診療にあたるようにと日々指導をしています。

他にも、医学のこと以外もしっかりと勉強することも大切だと伝えていきます。これは自分の経験した勘違いをさせないためでもあります。私も若い頃は、外傷の手術件数が全国でもトップクラスの病院に務めており、自分が患者さんを救っていると勘違いし、王様目線になって



いた時期がありました。しかし、病院内の一步出て外の世界をみると、自分も付いてくると気づかなくて、知らないだけで、全く、



を知らうと自ら動かなければ、周りのサポートにすら気づかないこともありました。なので、人の気持ちを知るためにも、医学以外の事もしっかりと勉強し経験を積むよう指導しています。研修医も救急診療に携わることから、地域の先生方にご迷惑をおかけすることもあると思います。引き続きご指導頂ければ幸いです。

また、当院は救命救急センターで初期診療後、必要に応じて専門の診療科に引き継ぐ北米型ERを導入してあります。救命救急センターでの診療後に、各診療科へ引き継ぎがよりスムーズになるように力を注ぎたいと思っています。急性期専

門治療に特化している相澤病院、地域密着型の相澤東病院と診療科の垣根を越えたチーム医療を実践することで、より質の高い医療を提供することができると考えております。

最近では、地域の先生方と顔を合わせる機会も増えて大変嬉しく思っております。何かあれば「相澤病院の救命救急センターへ」と言って頂けるよう邁進して参りますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

吉池センター長は、当院の救急医療という大きな柱をより強固なものとするため、職種、診療科の垣根を越えてコミュニケーションを取ってくださり、どんな時でも声を荒げることなく、丁寧にお話を聞いてくださります。我々スタッフ一同も、当院の掲げる断然救急を吉池センター長とともに維持し、この地域により質の高い医療を提供できるように挑戦し続けていきたいと思っております。(池田・金子)





# 相澤病院ふれあい祭りが開催されました



つながりAi  
ささえAi  
たすけAi



## 編集後記

本年は、元旦に能登地方を震源とする大規模地震がありました。犠牲となられた方々に心よりお悔み申し上げるとともに、被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。10月、輪島市に復興ボランティアに行ってきました。地震後の豪雨に伴う災害もあり、民家から泥などを取り除く作業のお手伝いをしてきましたが、まだまだ復興には程遠い現実を目の当たりにしました。各地から集まったボランティアの方々とは繋がりが、そして被災した方々の少しでも支えとなればと思います。一日も早い復旧・復興を衷心よりお祈り申し上げます。

連携通信も早いもので五回目の発行となりました。作成側として院内の多くの方々と関わることができ、改めて繋がりの大切さを感じています。仕事という様々な場面でDXの推進が話題となっていますが、人と人との繋がりが根底にあることを忘れずに仕事も私生活も送れればと思いました。

梅田